

帰国研修員との交流

【コソボ研修員と再会しました】



帰国研修員ルリさんのプレゼンを拝聴



帰国研修員の皆さんと一緒に昼食会

2014年10月20日

(公財) 北九州国際技術協力協会

コースリーダー 末田 元

1. 経緯



末田コースリーダー

昨年（2013年）秋に、「コソボ下水道対策能力向上」コースの第一回が約2週間開かれ、私がコースリーダーとして係りました。8名の研修員が参加しました。

今回、イタリアのペルージャで開かれる「世界湖沼会議」に参加しないかというNPO法人からのお誘いがあり、これを機会にコソボの研修員に会いに行くことにしました。当初、コソボに行く考えはなく、研修員の一人とでもペルージャで会えればよいと、以前からメールのやり取りをしていた研修員の一人ヴェビさんにイタリアに行く旨連絡しました。ヴェビさんからの返事は、「私はイタリアに行くことはできない。できれば末田さんがこちらに来てくれないか。ゲストとしてお迎えする。」という温かいお誘いでした。慣れない一人旅の外国旅行で、コソボまで行くのには不安がありましたが、この機会を逃すと二度と研修員の皆に会えることがないと考え、思い立ちました。

コソボまでは長い旅路でした。福岡空港を朝出発し上海経由でローマに降り立ち、ローマで2泊（一日の観光を楽しんだ）後、ローマからイスタンブール経由でプリシュティナ（コソボの首都）空港に到着しました。ローマの2泊を除き、福岡～プリシュティナに約25時間（飛行機乗り継ぎ時間を含む）を要しました。プリシュティナ国際空港は、Adem Jashari（アデム ヤシャリ）空港と呼ばれており、その理由が滞在中にわかります。

プリシュティナ空港には、ヴェビさんとデティさん（彼女も研修員の一人）が迎えてくれました。日が暮れて暗い中、予約したホテルまでヴェビさんの自家用車で連れて行ってくれました。

コソボでの3泊4日の滞在スケジュールは次の通りです。ヴェビさんが作成してくれたものに私が若干付け加えました。コソボ滞在中の様子をご紹介します。

JICA研修／閉講式 コソボ研修員のメンバー



2. コソボ滞在中の行動表

月日	同行者	時間	内容
8月27日		19:45	ヴェビさん、デティさんが、空港で未田を出迎え
8月28日	ヴェビさん デティさん	9:00~10:00	経済開発省にて、公共事業政策・監視局長 ラマダン セデュー氏と話し合い。 研修員シャハさんと再会。
		10:15	プリシュティナ発 スケンデライ下水処理場へ
		11:15~12:30	処理場見学。研修員（3名）との再会
		12:30~13:00	建国の英雄 Adem Jashari 記念墓地等見学
		>13:00	Kushtove にて昼食（研修員7名参加）
			ミトロビツァ市に立ち寄り
		21:00	夕食会（研修員3名+別コース研修員1名が参加）
8月29日	ヴェビさん デティさん	9:00	プリシュティナ発 プリズレン市へ
		10:30	研修員ルリーさんとルミーさんの帰国後の研修成果発表を拝聴 処理場設計コンサルタントと面会（ヴェビさんが段取り）
		12:30~13:30	プリズレンにて昼食（研修員7名参加） プリズレン下水処理場予定地見学
		13:40	プリズレン発
		14:00~14:30	ヴェビさんの生まれ故郷 Krusha e Madhe でコーヒーブレイク
		16:00	ペジャ市へ。ペジャ市の水道水源（川の最上流）見学
8月30日	ヴェビさん	—	国立博物館見学 アルバニアのマークさんと再会
	ヴェビさん デティさん	19:10	プリシュティナ空港発 ローマへ



3泊4日を過ごしたプリシュティナ市のホテル。歩道上の薄緑色のBoxは、ホテルの発電機。2か月に一度ほど停電することがあるとのこと。
朝食のパンが非常においしかった。今まで食べた中で最高。

3. 研修員と共に

8月28日（木曜）

午前中

- 1) 経済開発省にて、公共事業政策・監視局長 ラマダン セデュー氏と話し合い。
- 2) スケンデライ下水処理場見学
- 3) Adem Jashari（アデム ヤシャリ）慰霊墓地見学

【概要】

- ・ コソボについた次の日の第一日目の日程には、経済開発省の Director of Policy and Monitoring Unit of Public Enterprises ラマダン・セデュー氏との meeting と記載されていました。私としては、遊びとしてのコソボ行であったので、第一回目の研修に参加した経済開発省研修員の上司に挨拶する程度と思っていましたがそうではありませんでした。秘書のいる大きな部屋で局長が私を待っていてくれました。ヴェビさんの通訳で第一回目研修のことや、第二回目研修の方向性などを話しました。
- ・ スケンデライ下水処理場。この下水処理場は 8,000 人分を処理する規模のもので、コソボで唯一のもので。きれいな処理水が出ていました。ここでの見学は、見学に参加する研修員の気持ちを思い浮かべながら見て回りました。今回の処理場見学は私一人が研修員ですので、根掘り葉掘りいろいろと聞くことができましたが、こちらに戻ってきてレポートを書くのに不足資料が多いのに気が付きました。
- ・ Adem Jashari（アデム・ヤシャリ）慰霊墓地見学。子供から大人まで、コソボで彼の名前を知らない人はおそらくいないでしょう。「コソボ解放軍」設立者の一人で、コソボ建国の父といった存在です。訪問した事務所、執務室には必ずと言っていいほど彼の写真が飾られています。コソボは 2008 年にセルビアからの独立を宣言します。

①レポート詳細はこちらへ

報告書の詳細は、[ここをクリックしてご覧下さい。](#)

昼食

昼食には、研修員 8 名中 7 名が参加してくれました。シャハさんはおなかが大きいため欠席。全員ムスリムと思われませんが、ビール、ワインを飲む人（少数だが）タバコを吸う人もいました。町田幸彦著「コソボ紛争」の記述の中に、「プリシュティナの街を眺めてまず気づいたのは（著者は 1992

年 10 月に訪れています。末田注) イスラム教のモスク (寺院) やミレット (尖塔) が林立している光景です。コソボの住民の大半を占めるアルバニア人の多くがイスラム教徒であるため、イスラム教施設が多いのは当然だといえるでしょう。……ただ、アルバニア人とイスラム教の関係を中東地域などのように不可分の等式にはできません。とくに都市部のアルバニア人や知識人にはイスラム教徒であっても、むしろキリスト教カトリックに伝統的親近感を持っている人が多くみられます。バルカン地域のイスラム教徒の多くには非イスラム性とも呼べる特徴があります。……」とあります。同じ宗教でも、地域が変われば対応の仕方、考え方が変わるというのは当然なのでしょう。



昼食風景

久しぶりに研修員が集まったこと、私が参加したことから昼食の場が盛り上がりました。びっくりしたのは、飲んだ後、車を運転することです。飲んだ人が、昼食後何もなかったように車を運転して次の場所へ向かいました。飲まないヴェビさんに、日本でも昔はそうだったけれど、今は飲酒運転が非常に厳しく規制されていること、特に公務員の飲酒運転に対しては非常に風当たりが強いことなどを、説明しました。レストランの水槽で飼っている 400 グラムのニジマスなどが提供されました。これ一匹とパンで十分なほどの量なのにいろいろの皿が出され満腹を通り越しました。皆の食欲の大きさに感心。

午後

4) ミトロビツァ市へ立ち寄る

【概要】

コソボの北部にミトロビツァ市があります。この町は、中を流れる川で北部と南部に分けられています。紫川ほどの大きさで、市の中心部に車道と歩道を備えた橋 (紫川の太陽の橋を少し小さくした程度) があります。この橋を利用し南北を移動するのですが、橋は歩道部分を除き利用不能になっています。今でも北部にすむ人 (ほとんどがセルビア人) と南部に住む人 (ほとんどがアルバニア人) との対立が続いています。この町は、コソボの民族分断の象徴的な存在です。その具体例がこの橋です。 なお、コソボ国の住民はほとんどがアルバニア人です

②レポート詳

細はこちらへ

報告書の詳細は、[ここをクリックしてご覧下さい。](#)

夕食

研修員のルリーさん、ルミーさん、デティさんの招待で首都プリシュティナのレストランでごちそうになりました。ヴェビさんは外されない用事があり、申し訳ないと謝りながらこの日はお別れ。この夕食会には、滋賀県で実施された JICA の湖沼環境研修に参加した女性のブゼさんも参加。5 名でおいしい夕食を楽しみました。夕食は、レストランの庭園でいただきました。夜 9 時を過ぎていたため、外気温は低く 15 度前後だったのではないのでしょうか。



寒さのため、毛布を羽織るブゼさん。
デティさん、末田は膝に毛布。

昼間の 30 度を超える暑さとは考えられない寒さで、レストラン店員が白い毛布を持ってきてくれ、寒さをしのぎました。体格のいいルリーさんは寒さを感じないようで、半そでのままの夕食。

8月29日（金曜）

午前中

- 1) プリズレン市にあるルリーさん、ルミーさんの公社「RWC 南部地域水公社」本部を訪問
- 2) ルリーさん、ルミーさんの事務所を訪問
- 3) 処理場設計コンサルタントと面会

【概要】

1) RWC本部訪問

コソボの水道・下水道事業（実際行っている事業は、ほとんどが水道業務ですが）は、7 つの地域に分けられ、それぞれの地域の業務を水公社（国が株主）が担っています。訪問した RWC（プリズレン市他関連区域を担当）は下水処理場の建設が間近かに迫っていることもあり、研修員 2 名が第一回目の研修に参加しました。

理事長、副理事長（？）に挨拶をしたところ、理事長からこの研修に非常に期待していること、第二回目の研修に同じ人（2 名）を参加させる旨の話がありました。2 人の研修員からは、研修成果を利用して市民 PR 用に作成した下水道事業 PR の PPT を使って私にプレゼンを再現してくれました。

次頁へ続く

【概要】

2) ルリー、ルミさん事務所訪問

ルリー、ルミさんの事務所を訪問し、執務室を見せて頂きました。兩人とも個室。

ルリーさんは部長、ルミさんは課長(?)で、両者の部屋の大きさの差は歴然としています。

部屋には、アデム・ヤシャリの写真が飾られています。

3) 処理場設計コンサルタントと面会

処理場建設が迫っていましたが(すでに設計は終わっているようです)、コンサルタント職員2名との面会の時間をとって来ていました。町の中は合流式、処理場は分流式を採用すること。処理場に雨水が流れ込んできて大変なことになりはしないだろうか、など気になる点の話をしました。英語での説明がまずく相手に理解してもらえなかったのか、私のお話だけで終わりました。

報告書の詳細は、[ここをクリックしてご覧下さい。](#)

③レポート詳細はこちらへ

午後

4) プレズリン市の河川の様子

5) 処理場建設予定地視察

6) ヴェビさんの生まれ故郷 (Krusha e Madhe) 訪問

【概要】

4) プリズレン河川

コソボでは生活排水、水洗便所の排水が未処理のまま川に流れているのが普通ということで、プリズレン市に立ち寄った機会を利用し川の状況を見せてもらいました。このプリズレンも生活排水、水洗便所の排水を未処理のまま川に流しているとのこと。

川の水量が少ない時期でしたが、豊富な地下水で生活排水等が希釈されているためか、川の水質は特段悪い状態ではありませんでしたし、下水管から川に流れ込んでくる排水もそんなに悪い状態ではありませんでした。

5) 処理場建設予定地

プリズレン市では2017年に下水処理場の一部を稼働させる予定とのこと。このため処理場建設予定地の買収がすでに終わっています。稼働まであと3年ほどしかない状態ですが、建設予定地は、まだ広っぱの状態でした。今から突貫工事が始まるのかもしれない。

【概要】

6) ヴェビさん生まれ故郷

プリズレン市から次の目的地、ペジャ市の水道水源へ向かう途中、一休みをするためヴェビさんの生まれ故郷（Krusha e Madhe）に立ち寄りました。小さな店で飲み物を注文。そこで待っていてくれた元学校の先生から、この地域もセルビア人からの攻撃を受け、多くの一般市民も犠牲になったなど過去の悲惨な状況の説明を受けました。犠牲になった人たちを弔う慰霊墓地の建設が進んでいました。

報告書の詳細は、[ここをクリックしてご覧下さい。](#)

④レポート詳細はこちらへ

8月30日（土曜）

コソボ訪問最終日

コソボでの最終日です。「下水道維持管理コース」を2年前受けたアルバニアのマークさんが、コソボのプリシュティナまで会いに来てくれました。アルバニアの首都ティラナからプリシュティナまでは高速道路を使い約3.5時間です。コソボとアルバニアは切っても切り離せない仲（コソボでは自国の国旗よりもアルバニアの国旗を掲げているところが多い）ですが、マークさんはコソボが初めてとのこと。マークさんとの連絡調整はヴェビさんが行ってくれました。



マークさん、フィアンセと一緒に

水道、下水道のコンサルをしているフィアンセが同行です。マークさんは研修帰国後、政権の交代で国家公務員の職を解雇され、無職の状態が続いていましたが、幸い、カスピ海からイタリアまでの天然ガス輸送事業につくことができ元気になっていました。わざわざ会いに来てくれて感激でした。

彼が言うに、研修から帰って国の幹部に下水道事業の重要性を説明し、今後も研修員を派遣するよう

要請した。しかし政権が変わり、下水道事業にはあまり力を入れていないようだ。私の後に研修員が続いていないのが残念だ、とこぼしていました。

彼のフィアンセが下水道のコンサルをしていることから、研修で得たテキストを彼女に見せ有効に利用していること、将来彼女の会社でコンサル事業を一緒にやっていくことも視野に入れていることなど話が尽きませんでした。



マリアテレサ像の前で。
研修員から贈られた楽器を持っています。

～お別れです～

空港に、ヴェビさんとデティさんが見送りに来てくれました。

ヴェビさんは私の滞在中のスケジュール作りや、研修員との連絡調整、朝の出迎えから夜の見送り、通訳としての手助け、運転手、時には父親のような私に対する配慮で私をゲストとして迎えてくれました。ヴェビさんが言うに、「一つ残念なことがあった。それは、外せない用事ができ 28 日の夕食を一緒にできなかったことだ。」とのことでした。いやいや、完全にお世話をさせていただきましたよ、ヴェビさん。私のへたくそな英語から行間を読み取り、適切なアルバニア語訳をしていただき、会う人とのコミュニケーションがうまくいきました。通常の旅行では体験することのできないことも色々学ぶことができました。今まで全く知らなかったコソボ独立の、皆さんの悲惨な経験をほんの少しですが理解できました。感謝しています。

デティさんもほぼ毎日お付き合いしていただきました。北九州での研修中、コソボに来ることがあればぜひ私の家に泊まってください。部屋は十分あります。と言ってくれました。今回のコソボではホテルを予約しましたが、それでも私の家に来て止まってくださいと申し出てくれました。ありがとうございました。

また、研修員の人々も忙しい中、全員が集まってくれましたし、あちらこちら同行をしてくれました。本当にお世話になりました。言葉では伝えられない感謝です。



アダムヤシャリ空港にて。お土産として楽器とコソボの楯をいただきました。楽器胴体表面の下方には、「KOSOVA」と書かれ、サウンドホールにはアルバニアの国旗が貼っています。

～最後に～

今回 3 泊 4 日でコソボを訪問しました。一番大きな収穫は研修員と会うことができたことですが、それ以外の大きな収穫は、研修員が書いたジョブレポートの内容が身近のものになったということです。研修員のジョブレポートには、「国には下水処理場が一つしかないこと」、「水道・下水道事業は国の中にある 7 つの水公社が担当していること」、「公社の仕事は水道事業が主で下水道事業は今からの段階」、「現在下水処理施設建設の準備中」、「下水道技術についての全般的な知識を身に着けたい」等々が書かれていました。これを読んだ当時、全く具体的なイメージがつかめませんでした。例えば、「国に一つしかない下水処理場」と書かれていてもどのようなものか想像できなかつたし（本当に一つなのかなという疑問もありましたし）、「7 つの水公社」と言われてもどのような組織かが把握できなかつたし、下水処理場建設とはどのような状況を言っているのかも分かりませんでした。要するに、コソボ国の下水道の状況が全く理解できなかったのです。書かれたジョブレポート内容の字面だけを、ただ目で追うにすぎず具体的なイメージが全く湧いてきませんでした。研修員全員のジョブレポートの内容が似たり寄ったりであることも理解できませんでした。

今回訪問して、上に書いた曖昧模糊としたコソボ国における下水道状況が自分の体の中で、少しは絵として描ける状況になりました。福岡県の 2 倍の広さの国で人口 180 万人、一日で国の中のかなりの場所に移動できるほどの大きさ、その国が、下水処理事業についてほとんど手づかずの状況であることを考えると、研修員が書くジョブレポートの内容は基本的に同じ内容になるということも理解できました。

第二回目の研修に当たって、一回目のジョブレポートを今読み直しています（第一回目に参加した研修員 3 名が今回も参加です）。訪問する前と後ではジョブレポートの理解が全く違うことに気が付いています。あ～あ こんな意味だったのかという箇所がいっぱいです。

今回訪問の大きな収穫です。行って本当によかったというのが実感です。

～最後の最後に～

プリシュティナ市内の下水道のマンホール蓋を見て回りました。私のホテルが旧市街の中にあつたので、古い形のマンホールが多かつたです。いくつか写真で紹介します。合流式を採用しています。



車道の雨水呑みこみ口（雨水枳）です



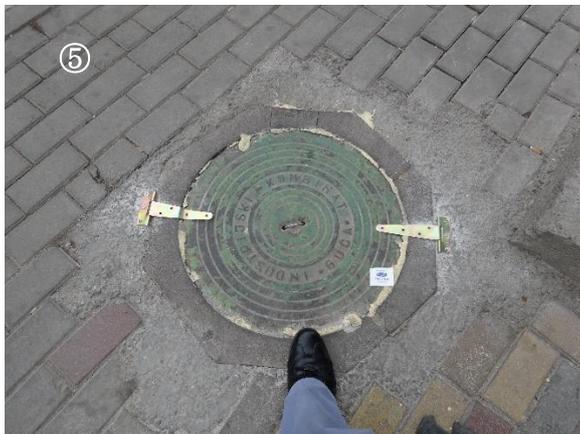
合流管のマンホール蓋です。雨水を取り込むため、大きな穴があります。



③
臭気が出てくるので穴をふさいだマンホール。周囲もビニールで封をしています。



④
左⑤のマンホールがあるパン屋さん。パンは自家焼。まきを使用しているとのこと。



⑤
パン屋さんの前のマンホール蓋。臭気対策をしています。



⑥
がっしりしたマンホール蓋



⑦
中国製と思われる。「市政」「汚」という字が読めます。プラスチック製です。



⑧
新市街地のマンホール蓋です。水道か下水道かわかりません。



⑨
このようなマンホール蓋もあります。



⑩
路上のマンホールの設置状況です。



新市街地です。
官庁が立ち並んでいます。
ここは歩行者天国です。朝
早かったため、人通りがあり
ません。

臭気対策を施したマンホール蓋が見られるように、管渠内で有機物が腐敗し硫化水素が発生していると思われます（実際、硫化水素のにおいが出ている箇所もあった）。ひよっとすると、硫化水素で管渠が腐食している箇所があるのかもしれない。

《帰国研修員の皆さんからお土産を頂きました。》



Kosovo
コソボの地図を表したものでコソボの地下層で採集された種々の鉱物を張り付けています。首都には緑色の石がはめ込まれています。



路上で実演をしながら売っていました。アラビア風の音階でフレットの位置が西洋音楽のそれとは違っています。2弦の楽器です。

{参考}

今回案内してもらったルートです。

黒線が 8 月 28 日

青線が 8 月 29 日 です。

コソボの面積は約 1 万 Km² です。福岡県の 2 倍ほどの小さな国です。人口は 180 万人です。



以上